

令和8年度 医師会病院 事業計画

1.人材育成	人材は益田市医師会の最大の資産であり、育成は経営の最重要投資と位置づける。育成重視の方針に基づき全職員がキャリアステージに応じて学び、挑戦できる体制を整える。		
中期目標(3年で達成)	実施計画	実施年度	備考
共通ラダー (組織人育成～マネジメント)と 専門ラダー (新人用とキャリアマップ)の策定	新人(1～3年目)の共通ラダーの策定と実施	R8～R10	ラダーのある部署はブラッシュアップを図る。実施の本格稼働はR9、R10を想定。
	リーダー級の共通ラダーの策定と実施	R8～R10	
	マネジメント級の共通ラダーの策定と実施	R8～R10	
	各部署・職種による専門性教育プログラムの策定と見直し	R8～R10	ラダーのある部署はブラッシュアップを図る。
	キャリアマップの策定	R8～R10	
施設基準等を維持するための 研修体系の整備	必須研修の選定と整備	R8	
	1年間のスケジュールの作成	R8	
外国人材の育成促進	外国人材の日本語教育充実による戦力化促進	R8～R10	
	外国人材の介護技術力の向上	R8～R10	
	外国人材の指導者の育成	R8～R10	
	外国人材の配置の検討と適正化	R8～R10	
ホームページ・ヤプリ・SNSなどの 情報発信力強化に向けた IT・DXに対応可能な人材育成の促進	DXを促進する体制の構築と運用ルールの策定	R8～R10	
	IT・DXに係る研修の検討と実施	R8～R10	

2. 組織文化改革	益田市医師会の文化を「守り」から「挑戦」へ転換する。若手の経営参画を促進する方針のもと自由に発言でき、迅速に動ける、心理的安全性を担保した風通しの良い組織を実現する。		
中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
委員会等の会議のあり方や運営方法の見直しによる効率的な業務運営体制の実現	委員会や会議の効率的な運営方法の見直し	R8～R9	
	委員会や会議の議事録の共有の見直し	R8	
組織と役割の再編成と承認権限の見直し	組織の役割の見直しと編成の検討	R8～R10	感染対策後の病棟ごとの検証と運用ルールの再検討（R8）
医師がよりパフォーマンスを発揮できるための 医師間連携・協力体制の検討、整備	医局での円滑な情報交換の体制の構築	R8	
	入院受け入れが円滑となる支援体制	R8～R10	
職員が相談しやすい環境の整備や コミュニケーション促進の強化	相談窓口の環境と体制の整備	R8～R10	
	情報発信の在り方の検討と促進	R8～R10	
人事給与制度、役割や職位等に応じた人事評価制度など働きがいの高い制度への見直し	当直業務の明確化と制度理解の促進	R8～R10	
	ラダーと評価制度の連携の見直し	R8～R10	
	人事給与制度や勤務制度の見直しの継続	R8～R10	
DXによる業務の価値創造の変革	DXを促進する体制の構築と運用ルールの策定	R8～R10	

3. 地域完結型医療の実現		「地域完結」への原点回帰 ~ 受診から在宅まで地域で支える医療を目指します		
中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備 考	
益田赤十字病院、松ヶ丘病院、医師会病院及びくにさき苑との病床連携協議体設立と有効な運用	医師会内での病床連携の体制の構築と運用ルールの策定	R8～R10		
	病院間で連携したパスの効果的な運用の検討と推進	R8～R10		
医師会病院、会員・クリニック、周辺介護施設との連携スキームの構築と実現	持続可能な病院機能維持と会員連携の両立	R8～R10		
	オンライン診療の実施に向けた体制と運用の検討と推進	R8～R10		
地域に必要な医療・病床機能の再分析と再構築	地域包括医療病棟の実現と安定した稼働の構築	R8		
	必要な医療提供のための人材雇用の推進と体制の整備	R8～R10		
	円滑な入退院の体制構築と運用ルールの策定	R8～R10		
透析部門の受け入れ体制の拡充と安全性向上（技術の継承等）	透析の技術の継承が行える体制の構築	R8		
	透析を安全性を担保した体制づくりと受け入れの拡充	R8～R10		
検診事業の体制拡充（検診人数増加、オプション健診推進、特定健診等）	安定して稼働を行える体制の検討と推進	R8～R10		
	特定保健指導や健診ツーリズム等の運用ルールの構築	R8～R10		
リハ機能の強化や体制整備（先進機器利用や退院支援、外来リハ機能等）	リハ科の新たな体制の構築	R8～R10		
	先進機器利用したりハやヘルスケアの研鑽と展開	R8～R10		
	退院後の外来リハ、訪問リハ等の連携と体制の強化	R8～R10		
地域住民との交流推進によるヘルスリテラシーの向上等	地域住民への健康増進・予防の講演の実施	R9～10		

<p>4. 経営健全化</p>	<p>持続可能な医療へ ~ 収益を確実に、無駄を徹底的に見直し、成長へ再投資します</p>		
<p>中期目標（3年で達成）</p>	<p>実施計画</p>	<p>実施年度</p>	<p>備考</p>
<p>根拠のある収益水準の検討と達成に向けた職員理解の醸成</p>	<p>収益達成にむけたロードマップの策定</p>	<p>R8 ~ R10</p>	
	<p>収益達成にむけたロードマップの見直しと職員への説明の実施</p>	<p>R8 ~ R10</p>	
<p>投資対象の費用対効果の検証</p>	<p>マーケティングの実施と広報活動の強化と整備</p>	<p>R8 ~ R10</p>	
	<p>事業計画の進捗のモニタリングと支援</p>	<p>R8 ~ R10</p>	
	<p>事業計画について協議する体制の構築と実施</p>	<p>R8 ~ R10</p>	

令和8年度 くにさき苑事業計画

<h3>1. 人材育成</h3>	<p>介護老人保健施設が地域における存在価値を確立するためには、介護職員のキャリアアップ（成長や活躍）が必須である。役職者は専門性の向上に加え、経営やマネジメント等の多角的な知識の習得、一般職には本人の興味関心、本人のキャリアプラン支援の視点で育成する。</p>		
中期目標(3年で達成)	実施計画	実施年度	備考
介護役職者の役割の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップの開発 	R8～9	日本生産性プログラム、話し方教室、チームビルディング、グロービス経営大学院進学、越境学習等
	<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメント力の強化 	R8～10	
	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の強化 	R8	
	<ul style="list-style-type: none"> ・MBAの取得 	R8～10	
介護職の人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップの開発 	R8～10	日本生産性プログラム、話し方教室等、チームケア、産業カウンセラー、技能実習指導員、アセッサー等の資格取得、越境学習
	<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメント力の強化 	R8～10	
	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の強化 	R8	
	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の育成 	R8～10	
	<ul style="list-style-type: none"> ・専門スキルの習得 	R8～10	

2. 組織文化改革	これまでの「～べき」「これまでは～」にとらわれず、業務を見直し改革する。		
中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
退所支援業務改革	入所者の退所支援を介護現場が主導で実施する。相談員は入所者の確保やベッドコントロールを担う。退所支援を担うことにより、現場のスタッフはより能動的に利用者の心身の状態やリハビリの進捗を把握するようになり、職員個々の観察スキルやコミュニケーションスキルの向上が期待できる。また、適切なタイミングで退所支援が行え、利用者の生活支援にもつながる。		
	・退所支援の流れの見直し	R8	
	・役割分担	R8	
	・フォロー体制の整備	R8	
記録業務の改革	記録業務の簡易化・効率化を図り、記録についての負担を軽減する。		
	・音声入力による記録システムの導入	R8	
	・新システムの定着	R8	
業務負担の軽減	先進技術を活用しサービスの質向上と業務の効率化を目指す。		
	・介護ロボット等の導入	R8～10	
	・サービス担当者会議のDX化	R8	
通所リハサービスの質向上と 持続可能な運営体制の確立	・入浴サービスを生活動作ととらえて再定義する	R8～10	
	・業務フローのリエンジニアリング	R8～10	
	・利用者中心の切れ目のないリハ体制を構築する	R8～10	

3. 地域完結型医療の実現	住み慣れた地域で最期まで安心して暮らせる社会を実現するために「認知症対応」「看取り」「アウトリーチ型支援」の拠点となるべく基礎作りを実施する。		
中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
認知症専門棟への転換を見据えた 認知症ケアの充実	「認知症になっても益田で暮らせる」を実現するために、「BPSDを軽減できる」「在宅復帰を目指せる認知症ケア」を目指す。認知症専門棟への転換をイメージした運用の検討。		
	・ケアリーダーの育成	R8～9	
	・アセスメント能力の強化	R8～9	
	・チームケアの強化	R8～9	
	・IT等テクノロジーの活用	R8～10	
	・環境整備の検討	R8～10	
	・家族、ケアマネ、地域との連携	R8～10	
看取りの充実	「最期まで益田で暮らす」を実現するために、幅広い利用者を受け入れ、医療的ニーズへの対応力を強化する。		
	・圏外に流出した利用者をくにさき苑に戻す	R8	
	・医療的知識・技術、緩和ケア知識・技術の習得・向上	R8	
	・コミュニケーション（利用者・家族・スタッフ間）能力の強化	R8～9	ACPの推進
	・多職種連携（チームケア）の強化	R8～9	看取りの実践 振り返り 共有
	・職員のストレスマネジメント	R8～9	
療養棟の別の役割分担	・職員の興味やキャリアプランを考慮した療養棟への配置を検討する	R8～10	
	・ターミナル期、認知症、医療度により入所する療養棟を分ける	R8～10	

中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
アウトリーチ型サービスの提供	<p>僻地の高齢者は介護サービスを受けにくく、在宅生活を送る中で徐々に機能低下を招いている。専門職が僻地に出かけてリハビリテーションを提供し、高齢者のADLの維持を図る。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス内容の検討・決定 	R8	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実現性（需要の有無・環境・体制）の検討・確認 	R8	
事業所間の連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や関係者への相談・連携 	R8	
	<p>市内介護事業所との連携（支援）することによる、地域介護力の向上に寄与する。また、両事業所の特長を活用した入退所により、利用者のADLの改善と活性化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内介護事業所への職員の派遣、助言・指導の実施 	R8	
	<ul style="list-style-type: none"> ・集中的なりハビリが必要な入居者のピックアップ くにさき苑への入所 	R8	
法人内の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・くにさき苑長期入所者の入所期間リセット 	R8	
	<ul style="list-style-type: none"> ・人的連携等の検討 	R8～10	
	<ul style="list-style-type: none"> ・医師会病院との連携によるベッドコントロール 	R8	

<h2 style="text-align: center;">4. 経営健全化</h2>	<p>くにさき苑が永く地域の重要なインフラとして存在し続けるためには、安定的な黒字の継続が重要。計画的にベトナム人を採用し人材を確保する必要がある。現地での広報、指導・交流、採用、育成を行なえる体制を目指す。また、益田市の協力も欠かせない。アウトリーチ型支援などによる地域貢献をしっかりと行うことにより行政の信頼と協力を得る。</p>		
中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
特別養護老人ホームとの連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な退所日時調整 	R8～10	
	<ul style="list-style-type: none"> ・入所前のかかりつけ医受診 	R8～10	
ベトナム事業の進展	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な人材確保（R8年度1名） 	R8～10	
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本合意書に基づく仁愛国際株式会社との連携の強化 	R8～10	
	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保・交流・技術指導のための訪越 	R8～10	
益田市との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ型支援を通じた連携 	R8～10	
	<ul style="list-style-type: none"> ・設備工事・整備の依頼の継続 	R8～10	

令和8年度 訪問看護ステーション事業計画

1. 人材育成

中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
教育・研修体制の整備	計画に沿った教育の実施、研修の受講	8～10	
専門性の向上	認定看護師等の外部研修への参加、参加者による事業所内フィードバック研修を1回以上行う	8	
評価・キャリアパスの導入	島根県看護協会作成のキャリアラダーに沿って、各スタッフの1年後のキャリア目標を明文化し、年2回以上の面談を必ず実施する	8	

2. 組織文化改革

中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
風通しの良いコミュニケーション	情報共有ミーティングを定例化し、出席率100%を維持する	8	
	効果的な情報共有につながる朝礼・終礼・ミーティングを目指して改革を行う	8	
働きやすい職場づくり	情報共有を含む対話機会の創出	8～10	
組織風土の「見える化」とモニタリング	業務改善アクションの促進	8～10	
	インシデント事案の共有の迅速化と再発防止策の共有	8～10	

3. 地域完結型医療の実現

中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
多職種連携の強化	地域の医療機関との連携窓口を明確化する	8	医師会病院からの紹介が少なく、月に2回以上各病棟を訪問し、1ヶ月に1名の利用者確保に努める
	ケアマネジャーとの連絡・カンファレンス参加を維持する	8	
在宅看取り・在宅療養支援	在宅看取り希望への対応率100%を維持する	8	
	在宅看取りに関する事後カンファレンスを看取り実施ケース全てで行い、ケアの振り返りと改善に生かす	8	
地域住民への啓発・予防活動	広報活動等の実施	8～10	
地域包括ケアシステムの促進	行政・医師会・訪看連絡会などの地域ネットワークでの役割を1つ以上担う	8～10	

4. 経営の健全化

中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
収支改善・生産性向上	新規受け入れ数を前年比10%増の月平均3.0名をめざす	8	
	毎月の収支状況をスタッフに共有する場を設ける	8	
	提供時間や回数の妥当性を精査し、ご家族やケアマネジャーに報告や提案を行う	8	
請求・加算の適正化	24時間対応体制加算、特別管理加算など、取得可能な加算の取得をめざす	8	
人材定着と採用	事業継続に必要な体制の維持	8～10	

令和8年度 居宅介護支援事業所事業計画

1. 人材育成

中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
介護支援専門員スキルの強化	マネジメント能力の向上	R8	

2. 組織文化改革

中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
記録業務の効率化	ナレフルチャットを活用して記録時間を短縮する	R8	
	月当たりの時間外勤務時間を15.5時間から10時間に減らす	R8	

3. 地域完結型医療の実現

中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
要介護者の在宅生活を支える	登録者数に合わせた迅速な受け入れ	R8～10	
	くにさき苑との連携による受け入れ	R8	

4. 経営の健全化

中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
収益を確保して赤字を増やさない	月平均介護48件、予防1件の利用者数を維持する	R8	
	登録者数52.7人を維持する	R8	

令和8年度 地域医療事業部事業計画 国民健康保険診療施設美都診療所・匹見道川診療所・匹見澄川診療所

	<p>1.基本方針：美都、匹見地区の医療・介護を将来的に適正な規模で維持するため益田市との協議を加速するとともに市内診療所を維持するための体制を構築する。</p> <p>2.主な施策： 各国保診療所の適正規模への変更とへき地医療の一定規模の確保、 医療DXの導入による人材不足への対応</p>		
中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
国保診療の体制適正化	住民理解に基づいた各国保診療所の運営体制の適正化（益田市との定期協議）	R8～R9	美都地区の体制ほか地域医療体制の行政との協議
医師会病院との連携	美都、匹見地区における医師会病院との連携方策の検討	R8～R10	へき地医療の維持
DX推進	電子カルテ・オンライン診療等の導入	R8～R9	
在宅医療体制の整備	会員の先生が担っている在宅診療などへの支援体制整備	R8～R9	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療体制の整備 ・介護施設入所者の健康管理支援体制の整備

令和8年度 石見高等看護学院事業計画

<h3>1. 人材育成</h3>	<p>石見高等看護学院は、地域医療を担う看護師を育成する3年制の看護師養成所で、地域に根ざした看護人材の育成が重要な役割である。専任教員の資質の向上、医療機関等と連携し非常勤講師や臨床講師を確保する取組を行っている。また、島根県が進める看護職員（人材）確保対策の重要な一部として入学定員を確保する。</p>		
中期目標(3年で達成)	実施計画	実施年度	備考
看護教員の育成及び講師の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・益田地域医療センター医師会病院と連携・協働し看護教員の育成 	R8～10	<ul style="list-style-type: none"> ・看護教員資格取得への支援 ・実習指導者養成講習会 ・島根県教員継続研修 ・臨床現場研修会 ・学会等への積極的参加 など ・自己研鑽支援休暇制度
	<ul style="list-style-type: none"> ・研修機会の確保と効果的な研修の実施 	R8～10	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自己研鑽への支援 	R8～10	
入学定員の確保 (看護人材)	<ul style="list-style-type: none"> ・入試改革 	R8～10	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集要項の見直し ・社会人入学、大学編入生の獲得 ・高校訪問、市町村との連携 ・イベント企画（見学会等） ・SNSを活用した情報発信 ・益田市の看護学生と地域の子どものふれあい交流事業を継続 ・計画的な模擬試験の実施
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動の促進 	R8～10	
	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の展開 	R8～10	
	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験の高合格率の維持 	R8～10	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズに応じた教育内容の充実 	R8～10	

2. 組織文化改革	石見高等看護学院の組織・運営について、次に掲げる目標を設定し、効果的な改善策を図っていく。		
中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
自己点検・評価による改善	学院活動全般について、学院の理念・目標に基づき教育活動や運営状況を自主的に点検・評価し、改善点を見出して向上につなげ、結果を公表することで説明責任を果たす。 1．評価委員会（定例会・年3回及び臨時会） ・学校自己評価 [全職員が包括的に判定] ・学生による学校評価、授業評価 ・保護者評価 ・入学者アンケート評価 ・卒業前アンケート評価	R8～10	・点検及び評価に関する要綱 ・公表は、HP及び年報の発刊
	2．学校関係者評価委員会（年1回） ・「自己点検・自己評価」及び「外部アンケート」の結果を評価する	R8～10	・学校関係者評価に関する要綱
教員の自己効力感を高める 組織文化の醸成	1．業務のスリム化	R8～10	
	2．教員間の授業の支援、学び合い	R8～10	
	3．新任教員の育成、定着	R8～10	

3. 地域完結型医療の実現			
中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
該当なし			

4. 経営健全化	島根県立石見高等看護学院の管理運営については、（公社）益田市医師会が県から委託を受けており、運営費・教育研修費などの経費は、県からの管理運営委託料で執行している。しかしながら、県の財政も厳しい状況であり十分な予算とはなっていない。今後も必要な予算を確保するとともに、計画的な予算執行に努める。		
中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
島根県との密接な連携	・設置者（県）との情報共有と意見交換の実施	R8～10	・運営方針、事業計画、課題等
	・修学支援新制度機関要件の確認	R8～10	・定員充足率
	・組織・人員、予算に係る要望活動	R8～10	
入学定員の確保 （看護人材） （1.人材育成・再掲）	・入試改革	R8～10	・学生募集要項の見直し
	・学生募集活動の促進	R8～10	・社会人入学、大学編入生の獲得
	・広報活動の展開	R8～10	・高校訪問、市町村との連携
	・看護師国家試験の高合格率の維持	R8～10	・イベント企画（見学会等）
	・地域ニーズに応じた教育内容の充実	R8～10	・SNSを活用した情報発信 ・益田市の看護学生と地域の子どものふれあい交流事業を継続 ・計画的な模擬試験の実施
学院環境の整備	・施設設備の老朽化対策	R8～10	・事後保全から予防保全へ
	・教育備品等の計画的な更新	R8～10	
	・法定点検、定期点検の継続	R8～10	

令和8年度 職員保育所事業計画

	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針：職員の働きやすい環境づくりを支援する。 ・主な施策： 職員のニーズに合った保育の推進 保育所のあり方、運営体制の見直し 		
中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
職員のニーズに合った保育の推進	利用者の減少の中でより職員にニーズに合った保育のあり方の分析と対応策の検討	R8～R9	より職員ニーズに合った効果的な体制を検討
保育所のあり方、運営体制の見直し	全体の経営環境が厳しい環境下での安定的継続策の検討と実施	R8～R9	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の有効活用 ・病院、くにさき苑の費用負担軽減に向けた抜本的対策の実施

令和8年度 医療介護連携統括部事業計画

	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針：地域医療介護連携統括部の果たしてきた役割・機能等を検証し、各事業部の運営により貢献できる体制を再構築する。 ・主な施策： 地域医療介護連携統括部機能分担と人材の適正配置、 委託事業の再評価と医師会経営への貢献、病病連携、病診連携、医介連携による患者・利用者の抵抗のない流れ（地域完結型医療）の推進 益田市東部 ・中部包括支援センターの体制再構築 		
中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
業務内容の再評価	地域医療介護連携統括部の業務内容の再評価と、それに伴う人材配置の再検討	R8～R10	より効果的な体制を検討
委託事業の課題検証	委託事業（在宅医療介護支援事業、病床の機能分化に向けた医療連携推進コーディネーター配置事業、地域包括支援センター事業）の島根県・益田市と将来性に関する課題の検討。	R8～R10	島根県、益田市の委託事業の課題検討
経営への貢献	委託事業を利用して医師会各事業部との患者・利用者の流れをつくることによる経営貢献。	R8～R10	
住民の県外流出阻止	行政、医療機関や介護施設の役割分担の強化による地域住民の県外流出の阻止。	R8～R10	
益田市東部・中部包括支援センターの運営	市民にとって使いやすく安定継続可能な体制の再構築	R8	益田市との協議を促進し、体制の再構築を目指す

令和8年度 医師会事業本部事業計画

1. 人材育成	各事業部、会員診療所の経営・運営に資する高度人材の育成を進める。		
中期目標(3年で達成)	実施計画	実施年度	備考
人材育成の促進	・企画力・専門性の高い人材育成	R8～R10	・企画力向上により新しい価値を創造 ・専門性向上により各事業所運営に資する体制を整備 ・マネジメント力強化による次世代人材の育成促進
	・マネジメント力の強化	R8～R10	
	・HP、アプリ、SNSを駆使できる人材育成と情報発信力強化	R8～R9	
外国人材の育成促進	・外国人材の日本語教育充実による戦力化促進	R8～R10	日本語教育の継続・充実による早期戦略化

2. 組織文化改革	スピーディーな意思決定ができる組織の在り方の検討と実施。		
中期目標(3年で達成)	実施計画	実施年度	備考
重要会議等の権限見直し	総会、理事会など決裁機能を持つ重要会議の運営方法および承認権限の検討	R8～R9	各運営委員会などの権限見直し
業務効率化・合理化	医師会事業本部の業務DXによる効率化・合理化の推進	R8～R9	各種申請業務などの効率化により組織全体の管理業務等を軽減
組織・業務の再編	組織・業務の再編などによる全体の実行体制を再構築	R8～R9	将来を見据えた組織体制の検討

3. 地域完結型医療の実現	圏域医療機関、介護施設等との効果的連携方法の協議加速		
中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
機能連携促進	行政・圏域医療機関との機能連携協議を促進	R8～R10	深度ある連携策の構築
市民向け活動の推進	医師会健康まつりの開催ほか市民向けの健康促進事業の実施	R8～R10	健康意識の高揚、圏域医療介護情報等の広報
地域医療連携推進法人の研究	診療所、介護事業所を含めた地域医療連携推進法人の有効性研究	R8～R9	緩やかな連携から推進法人への展開を目指す
圏域BCPの策定	大規模災害に備えた会員診療所を含めた医療介護体制の継続策の策定（島根県、益田市、島根県医師会と協働）	R8～R9	大規模災害時の診療所の維持・支援体制

4. 経営健全化	R8年度からR10年度までの3年間で経営収支黒字化を必達		
中期目標（3年で達成）	実施計画	実施年度	備考
採用活動強化	収益規模に応じた適正な医師、看護師、薬剤師等の確保に向けた採用活動強化	R8～R10	適正な人員配置を実現
人員配置計画	中期人員配置計画と適正な人件費水準の策定	R8	病棟再編、機能変更にもなう適正な人員配置計画を策定
経営分析	<ul style="list-style-type: none"> 費用構造の分析と圧縮策の実行および赤字部門の抜本的対策の実行 福利厚生制度の実効性検証と必要な対応策の実施 	R8～R10	R10年度までに法人全体の黒字化を達成
着実な経営改善	令和8年度予算にもとづく令和10年度までの収支改善計画の策定と実効性のある検証	R8	同上
病棟建替えプラン策定	病棟建替えに向けた実現可能な具体策の検討とロードマップの策定	R8～R9	本館棟老朽化への対策
法令等への対応	公益認定法改正に対する適正な対応	R8～R9	R7年度改正への対応

<p>5. 診療所・医師会員の減少予測に対応した地域医療の持続支援体制整備</p>	<p>1. 基本方針：地域医療を支えてきた医師会は、診療所減少・会員減少時代に突入した。これらの減少を前提とした医療提供体制の再構築を図るとともに次世代につなぐ益田の医療提供体制確立に向けた活動を積極的に展開する。</p> <p>2. 主な施策： 会員の診療所運営に資する事業の展開、 医師の高齢化・減少を見据えた医療介護・保健・福祉サービス提供体制の構築、 診療所維持のための方策検討</p>		
<p>中期目標（3年で達成）</p>	<p>実施計画</p>	<p>実施年度</p>	<p>備考</p>
<p>アドバイザー機能の充実</p>	<p>診療報酬改定にともない診療所の運営・経営の改善に資する情報を分析、会員に提言できるアドバイザー機能の充実</p>	<p>R8～R10</p>	<p>医師会事業本部の企画能力・専門性向上他</p>
<p>新たなシステム作り</p>	<p>会員が担っている在宅訪問診療、学校医、園医、産業医、嘱託などを新たに支えるシステム作りを推進</p>	<p>R8～R10</p>	<p>医師会病院に左記の機能を新設検討</p>
<p>診療所体制の維持</p>	<p>診療所の維持を図るため、開業希望医師の募集、診療所の新設・承継・廃止にかかる支援、医師会病院を核にした圏域の診療所体制の構築</p>	<p>R8～R10</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の意向確認 ・行政との深度ある協議
<p>スキルアップ支援</p>	<p>会員・会員の診療所職員のスキルアップ支援（学術講演会ほか研修会の開催、診療所職員向け勉強会、研修指導の開始など）</p>	<p>R8～R10</p>	<p>何が求められ何ができるか、しなければならぬかの協議を展開する</p>
<p>会員負担の軽減</p>	<p>国、医師会、県医師会等医師会関連申請業務の支援などによる会員負担の軽減</p>	<p>R8～R10</p>	<p>同上</p>
<p>会員相互扶助事業</p>	<p>会員相互扶助事業の継続・推進</p>	<p>R8～R10</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種交流会の開催 ・医療介護等情報の共有化推進他